

# 第55期 報告事項

株式会社 JMS

第55期 事業報告、連結計算書類、および計算書類の内容について、ご報告申し上げます。

当期における世界経済は、米中摩擦の激化により、米国、中国のほか、ユーロ圏経済の減速基調が継続している中、新型コロナウイルス感染症のグローバルな感染拡大に伴い、世界でパンデミックを引き起こし、各国での需要が落ち込んでおります。

世界の工場である中国では、生産停止による投資の先送り等、物流、人流規制が実施されたことによる供給途絶が世界経済を大きく減速させております。この供給途絶の影響によりASEAN、NIEsはマイナス成長となり、また、米国及び欧州においても感染拡大と重なり、失業率が増加、個人消費が落ち込む等、世界的規模で景気が減速しております。

国内経済は、設備投資の減速及び所得の伸び悩みによる個人消費の低迷から低成長が続く中、政府等からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止要請を受けての外出自粛による生活必需品以外のモノの消費や、外食・宿泊・旅行等コトの消費が大幅に落ち込み、企業は設備投資、輸出ともに低迷し、景気は落ち込んでおります。

## 米国・欧州

- 高齢化の進展と医療の高度化
- ヘルスケア領域におけるデジタルイノベーションを加速する政策が実行
- 臨床現場で手術支援ロボット等の先端技術を活用した医療機器の積極的な導入
- 新技術を実装した医療ロボットやA I等の導入

そうした中、当社グループを取り巻く環境は、医療現場において新型コロナウイルス感染症との闘いと共に医療を守るための瀬戸際の対応が続いております。その一方で、海外においては、高齢化の進展と医療の高度化に伴い、米国、欧州において多くの病院が新技術の導入に積極的です。米国では、ヘルスケア領域におけるデジタルイノベーションを加速する政策が実行され、臨床現場で手術支援ロボット等の先端技術を活用した医療機器の積極的な導入が続くと共に、欧州では、新技術を実装した医療ロボットやAI等の導入が進展しております。

中国・アジア新興国

慢性疾患の早期診断、治療ニーズの高まり



医療機器市場は安定成長が続く

また、中国、アジア等の新興国においては、慢性疾患の早期診断、治療ニーズの高まりから医療機器市場は安定成長が続いております。

## 国内

- 高齢化の進展に伴い治療機器需要が増加
- 病院の機能統合による急性期病院の減少



医療機器市場は緩やかな成長

日本国内においては、引き続き高齢化の進展に伴い治療機器需要が増加する一方、病院の機能統合による急性期病院の減少を受け、医療機器市場は緩やかな成長となっております。

ホスピタルプロダクツ  
ビジネスユニット

輸液・栄養領域



サージカル&セラピー  
ビジネスユニット

透析領域及び  
外科治療領域



ブラッドマネジメント  
&セルセラピー  
ビジネスユニット

血液・細胞領域



当社グループの事業活動としましては、ホスピタルプロダクツビジネスユニットでは輸液・栄養領域を、サージカル&セラピービジネスユニットでは透析領域及び外科治療領域を、ブラッドマネジメント&セルセラピービジネスユニットでは血液・細胞領域を中心にそれぞれ事業を展開し、製品の開発、製造、販売を進めております。

接続部をロック化  
「Q-LOCK®」することによる  
離脱防止の安全対策製品

「Q-LOCK®」▶



当期におきましては、こうした取り組みの一環として、輸液・栄養領域において、経腸栄養ラインと輸液ライン等を物理的に接続させないことを目的とする国際規格基準に準拠した誤接続防止コネクタの経腸栄養システムの国内導入を進め、さらに栄養剤用バッグや栄養ボトルと栄養セットの接続部は輸液ライン等の色と識別できる紫色で統一し、加えて接続部をロック化「Q-LOCK®」することによる離脱防止の安全対策製品を提案しております。



多血小板血漿を血液中から  
分離するためのデバイス

◀ 血液成分分離バッグ  
「セルエイド®Pタイプ」

また、血液・細胞領域において末梢循環が悪くなった糖尿病患者さんや寝たきりの患者さん等に好発する難治性皮膚潰瘍治療に用いる多血小板血漿を血液中から分離するためのデバイスとして血液成分分離バッグ「セルエイド Pタイプ」が医療現場で活用されています。

# システム別の業績

当期のシステム別業績に関しご報告申し上げます。





輸液・栄養領域におきましては、日本国内において薬剤調製・投与クローズドシステムの販売が好調に推移したものの、医療機関の共同調達の拡大による市場価格の下落に加え、海外において、アジアの輸液セットの販売が減少したことから、

売上高

226億26百万円

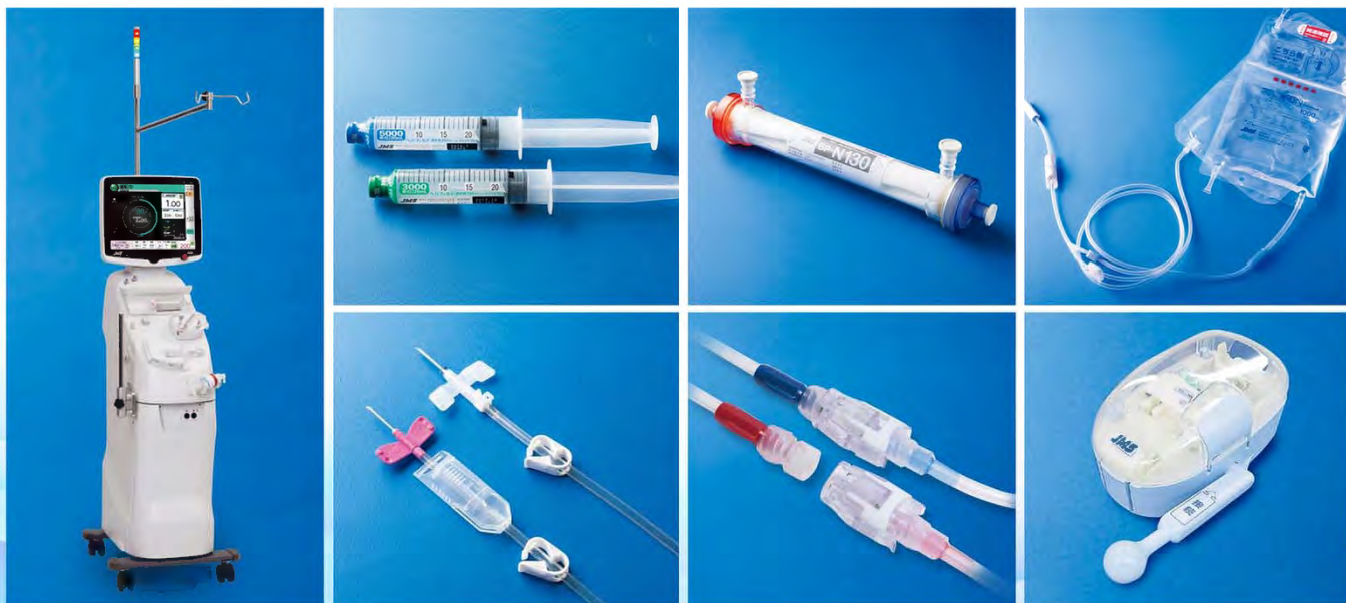
前連結会計年度比3.3%減少



売上高は226億26百万円(前期比3.3%減)となりました。

# 透析領域

JMS

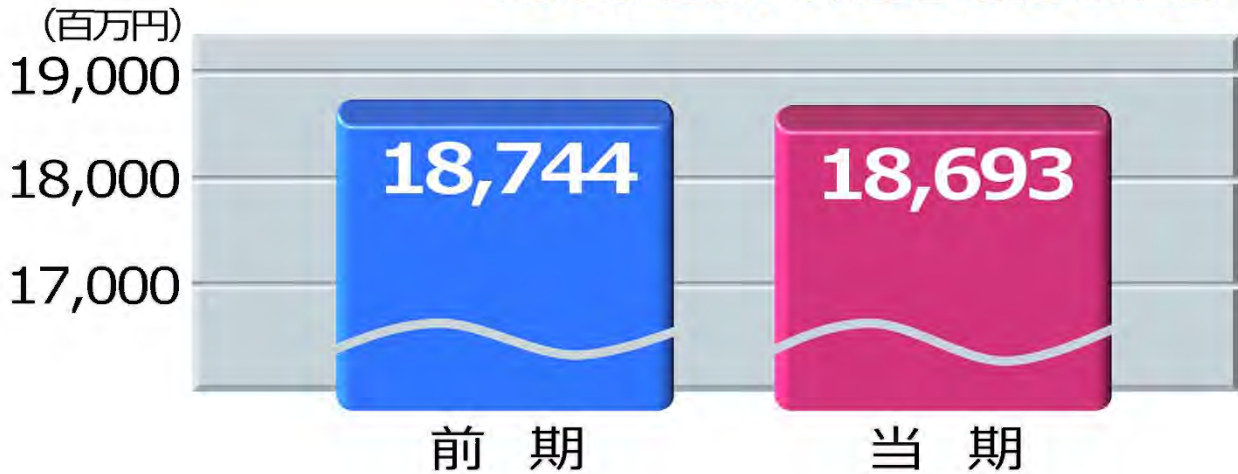


透析領域におきましては、日本国内において人工腎臓用血液回路及び透析装置メンテナンスの販売に加え、海外において北米のAVF針（血液透析用針）の販売が増加したものの、中国の血液透析装置の販売が遅れたことから、

売上高

**186億93百万円**

前連結会計年度比 0.3%減少



売上高186億93百万円(前期比0.3%減)となりました。



外科治療領域におきましては、日本国内において心肺回路の販売が増加したものの、ペースメーカーの事業縮小に加え、償還価格改定による価格低下により、

売上高

42億77百万円

前連結会計年度比 2.2%減少



売上高は42億77百万円(前期比2.2%減)となりました。



血液・細胞領域におきましては、日本国内において白血球除去フィルター付血液バッグの販売が増加したことに加え、海外において北米の成分献血用回路、中東の血液バッグの販売が増加したことから、

売上高

**117億17百万円**

前連結会計年度比 14.6%増加



売上高は117億17百万円(前期比14.6%増)となりました。



売上高

12億53百万円

前連結会計年度比 4.0%減少



その他取扱商品の売上高は12億53百万円(前期比4.0%減)となりました。

売上高

**585億69百万円**

前連結会計年度比 0.9%増加



以上の結果、当期の売上高は、前期比0.9%増加の585億69百万円となりました。

国内

販売費及び一般管理費を抑制

海外

血液・細胞領域の増収効果  
フィリピンでの販売拡大

利益につきましては、日本国内において販売費及び一般管理費を抑制したことに加え、海外において血液・細胞領域の増収効果のほか、フィリピンでは販売拡大に伴い固定費を吸収し単年度黒字となったことにより、

## 経常利益

**26億72百万円**

前連結会計年度比 **75.8%増加**

## 親会社株主に帰属する 当期純利益

**19億77百万円**

前連結会計年度比 **70.5%増加**

経常利益は26億72百万円(前期比75.8%増)となりました。

また、親会社株主に帰属する当期純利益は19億77百万円(前期比70.5%増)となりました。

## 設 備 投 資

28億44百万円

生産能力強化のための設備  
及び老朽化設備の更新

当期中に実施した設備投資の総額は28億44百万円であり、その主なものは、生産能力強化のための設備及び老朽化設備の更新であります。

# 資金調達の状況

当期において社債又は新株式の発行等による資金調達は行っておりません。

## ■企業集団の現況に関する事項

- 財産及び損益の状況の推移
- 重要な親会社及び子会社の状況
- 主要な事業内容
- 主要な営業所及び工場等
- 従業員の状況
- 主要な借入先

## ■会社の株式に関する事項

## ■会社役員に関する事項

## ■会計監査人の状況

## ■会社の体制及び方針

次に、「企業集団の現況に関する事項」の「財産及び損益の状況の推移」、「重要な親会社及び子会社の状況」、「主要な事業内容」、「主要な営業所及び工場等」、「従業員の状況」、「主要な借入先」、また「会社の株式に関する事項」、「会社役員に関する事項」、「会計監査人の状況」、「会社の体制及び方針」につきましては、招集ご通知8ページから23ページに記載の通りでございますので、ご高覧願います。

# 連結貸借対照表

続きまして、招集ご通知24ページに記載の連結貸借対照表につきまして、その概要をご説明申し上げます。



## 資産の部



(単位：百万円)

科目	前期	当期	資産合計	
資産合計	67,320	66,567	67,320	66,567
流動資産	37,748	37,088		
固定資産	29,571	29,479		

7億53百万円  
減少

前期 当期

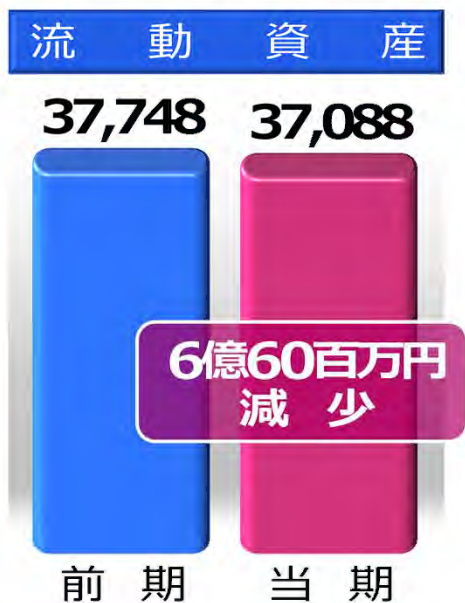
2020年3月31日現在の資産合計は、665億67百万円であり前期末に比べ7億53百万円減少しております。

# 資産の部



(単位：百万円)

科目	前期	当期
資産合計	67,320	66,567
流動資産	37,748	37,088
固定資産	29,571	29,479



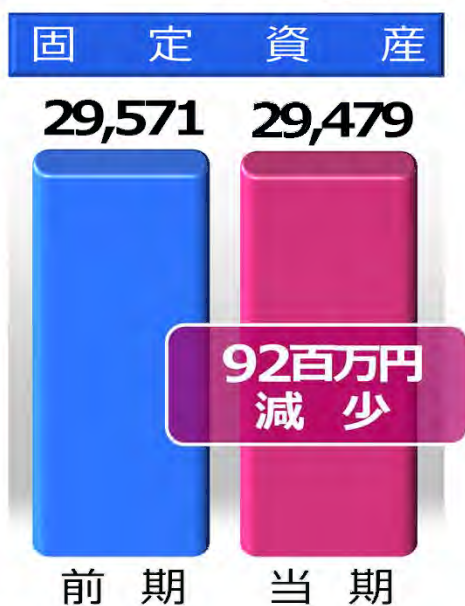
その内訳につきましては、流動資産は、370億88百万円、

# 資産の部



(単位：百万円)

科目	前期	当期
資産合計	67,320	66,567
流動資産	37,748	37,088
固定資産	29,571	29,479



固定資産は、294億79百万円でございます。

## 負債の部



(単位：百万円)

科目	前期	当期
負債合計	35,420	34,096
流動負債	22,663	21,895
固定負債	12,756	12,201



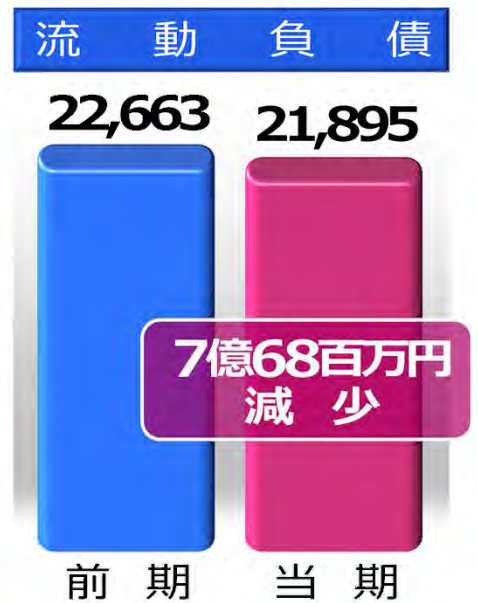
次に、負債合計は、340億96百万円であり前期末に比べ13億23百万円減少しております。

# 負債の部



(単位：百万円)

科目	前期	当期
負債合計	35,420	34,096
流動負債	22,663	21,895
固定負債	12,756	12,201



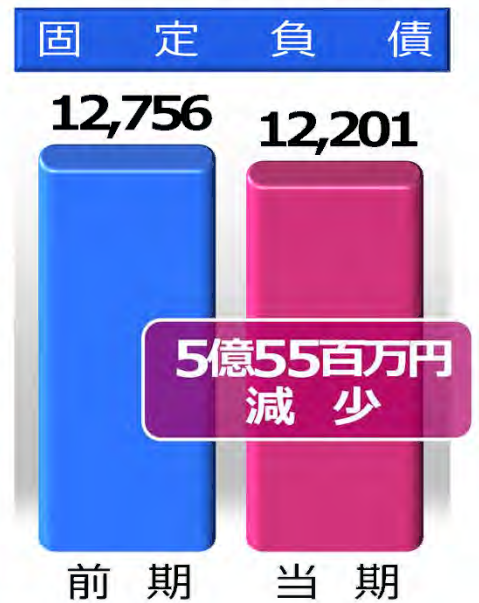
その内訳につきましては、流動負債は、218億95百万円、

# 負債の部



(単位：百万円)

科目	前期	当期
負債合計	35,420	34,096
流動負債	22,663	21,895
固定負債	12,756	12,201



固定負債は、122億1百万円でございます。

## 純資産の部

(単位：百万円)

科 目	前 期	当 期
純 資 産 合 計	31,900	32,470
株 主 資 本 合 計	31,821	33,435
その他の包括利益累計額	△56	△1,098
非支配株主持分	135	133

### 株主資本合計



### 内 訳

資 本 金	7,411
資 本 剰 余 金	10,362
利 益 剰 余 金	15,932
自 己 株 式	△270

また、純資産につきましては、株主資本合計は、334億35百万円であり、

その内訳は、資本金74億11百万円、資本剰余金103億62百万円、利益剰余金159億32百万円、控除項目として、自己株式は、2億70百万円でございます。

## 純資産の部



(単位：百万円)

科目	前 期	当 期
純 資 産 合 計	31,900	32,470
株 主 資 本 合 計	31,821	33,435
その他の包括利益累計額	△56	△1,098
非支配株主持分	135	133

### その他の包括利益累計額



内 訳		
その他有価証券評価差額金		203
為替換算調整勘定		△1,302

その他の包括利益累計額は、△10億98百万円であり、

その内訳は、その他有価証券評価差額金2億03百万円、為替換算調整勘定△13億02百万円でございます。



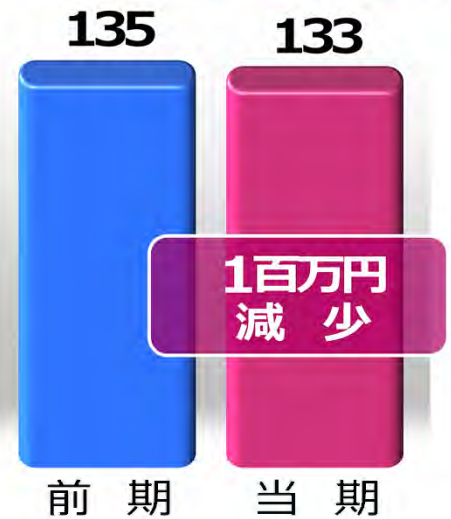
## 純資産の部



(単位：百万円)

科 目	前 期	当 期
純 資 産 合 計	31,900	32,470
株 主 資 本 合 計	31,821	33,435
その他の包括利益累計額	△56	△1,098
非支配株主持分	135	133

### 非支配株主持分



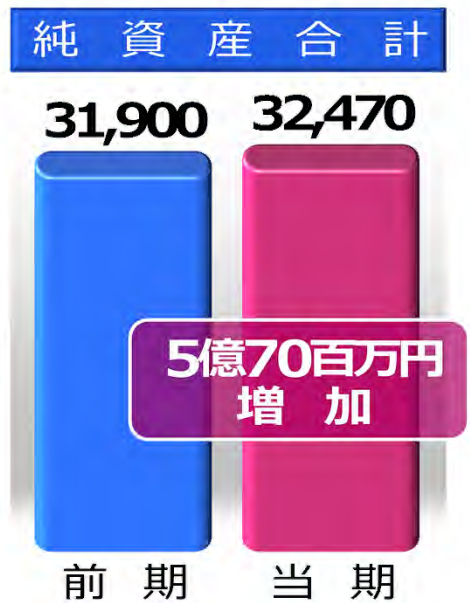
非支配株主持分は、1億33百万円であり、

## 純資産の部



(単位：百万円)

科 目	前 期	当 期
純 資 産 合 計	31,900	32,470
株 主 資 本 合 計	31,821	33,435
その他の包括利益累計額	△56	△1,098
非支配株主持分	135	133



以上のことから純資産合計は、324億70百万円となり前期末に比べ5億70百万円増加いたしました。

## 自己資本比率の推移

JMS



また、自己資本比率は、48.6%であり前期末に比べ1.4ポイント上昇いたしました。

# 連結損益計算書

次に、招集ご通知25ページに記載の連結損益計算書につきまして、その概要をご説明申し上げます。

# 連結損益計算書



(単位：百万円)

科目	前期	当期
売上高	58,059	58,569
営業利益	1,462	2,314
経常利益	1,520	2,672
税金等調整前 当期純利益	1,480	2,567
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,160	1,977



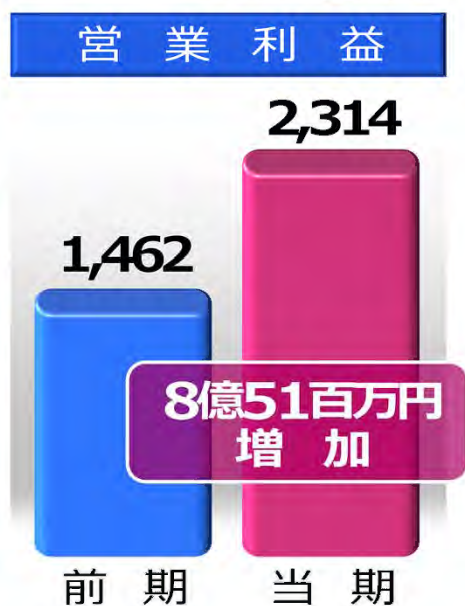
2019年4月1日から2020年3月31日までの連結売上高は、前期に比べ5億10百万円増加の585億69百万円であり、

# 連結損益計算書



(単位：百万円)

科目	前期	当期
売上高	58,059	58,569
営業利益	1,462	2,314
経常利益	1,520	2,672
税金等調整前 当期純利益	1,480	2,567
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,160	1,977



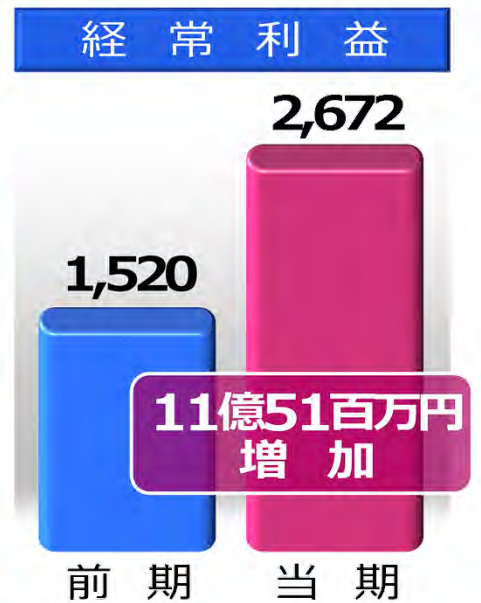
営業利益につきましては、前期に比べ8億51百万円増加の23億14百万円となりました。

# 連結損益計算書



(単位：百万円)

科目	前期	当期
売上高	58,059	58,569
営業利益	1,462	2,314
経常利益	1,520	2,672
税金等調整前 当期純利益	1,480	2,567
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,160	1,977



経常利益につきましては、前期に比べ11億51百万円増加の26億72百万円となり、

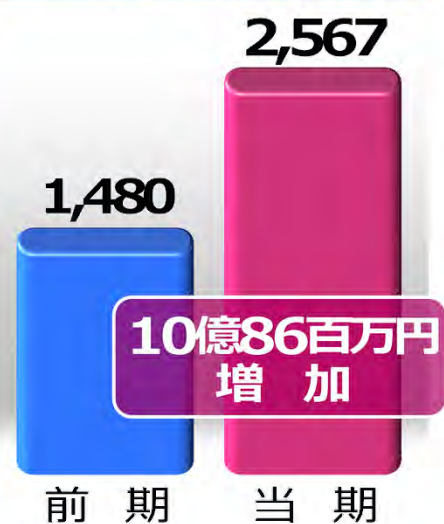
# 連結損益計算書



(単位：百万円)

科目	前期	当期
売上高	58,059	58,569
営業利益	1,462	2,314
経常利益	1,520	2,672
税金等調整前 当期純利益	1,480	2,567
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,160	1,977

税金等調整前当期純利益



税金等調整前当期純利益は、前期に比べ10億86百万円増加の25億67百万円となりました。



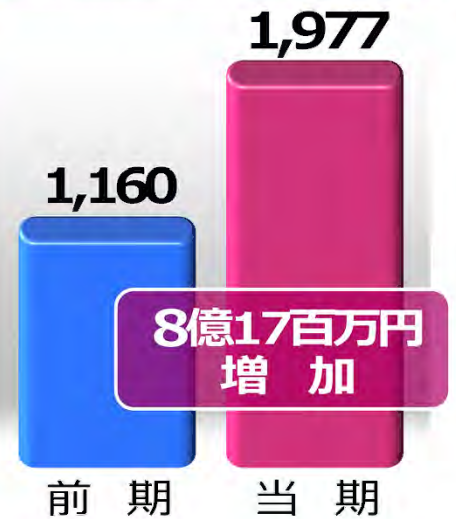
# 連結損益計算書



(単位：百万円)

科 目	前 期	当 期
売 上 高	58,059	58,569
営 業 利 益	1,462	2,314
経 常 利 益	1,520	2,672
税金等調整前 当期純利益	1,480	2,567
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,160	1,977

親会社株主に帰属する当期純利益



これから、法人税などを差し引いた結果、親会社株主に帰属する当期純利益は、19億77百万円となり前期に比べ8億17百万円増加いたしました。

貸借対照表

損益計算書

連結株主資本等変動計算書

連結注記表

株主資本等変動計算書

個別注記表

なお、貸借対照表、損益計算書は、招集ご通知26ページから27ページに記載、連結株主資本等変動計算書、連結注記表、株主資本等変動計算書、個別注記表は当社ウェブサイトの開示しました通りでございますので、ご高覧願います。

# 対処すべき課題

また、対処すべき課題につきましては、招集ご通知6ページから7ページに記載の通りでございますので、ご高覧願います。

第55回定時株主総会

対処すべき課題

中期的な取り組み

－ 中期経営計画（2020.04～2023.03）－

《GAIN-RG 2023》

「対処すべき課題」に関し、前中期経営計画の総括と、新しい中期経営計画で掲げる取り組みについてご説明申し上げます。

■ 顧客起点での事業推進

■ 全社的な生産性向上



成果) 収益性の着実な改善

課題) 成長スピードと安定収益

前中期経営計画では、「顧客起点」と「生産性向上」を基本方針として、機能強化したビジネスユニット(BU)を軸に国内事業を推進し、海外では中国・ASEANを中心にグローバル展開を図りました。

その結果、フィリピン工場が操業4年目で黒字化を果たすなど収益性の改善に一定の成果を上げる事ができましたが、3年間の売上高/年平均成長率は1.8%に留まり、成長スピードに課題を残しました。

## 2030年長期ビジョン：

未来の医療を先取りした新たな価値の創造を実現し、  
世界の人々の健康とQOLの一層の向上を支える企業になる

## 新中期経営計画：《GAIN-RG 2023》

Globalization, Acceleration and Innovation

for the New generation, to Realize Growth

グローバルに、スピード感をもって、イノベーションを推進し、  
新たな時代を切り拓いて、成長を実現

この結果を踏まえ、進行中である前中計の取り組みは踏襲し、環境変化に対応するための新たな施策を織り込んだ「新中期経営計画」《GAIN-RG 2023》を策定いたしました。

また長期ビジョンを掲げ、その実現に向けて次の取り組みを進めてまいります。

# 取り組み①：事業ポートフォリオの最適化

## ホスピタルプロダクツBU

- 輸液・栄養領域の拡大
- がん領域の成長



各BUの機動性

# 総合力

BU間の連携

## ブラッドマネジメント&セルセラピーBU

- 血液バッグのシェア拡大
- 細胞・再生事業の基盤確立



## サージカル&セラピーBU

- 基盤製品の強化
- 収益構造の継続的改革

国内市場では、継続する医療費抑制策により市場競争が厳しさを増す一方で、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、院内感染対策や医療事故防止などの製品需要が増加しております。

このような環境のもと、国内事業の収益力回復により業績を安定成長の軌道に乗せるべく、各BUの機動性とBU間の連携を一層強めた戦略を展開し、当社の総合力を最大限発揮させ、ビジネスを拡大してまいります。

## 取り組み②：グローバル体制の強化



### グローバルマーケティング本部の立ち上げ



中国・ASEANを中心に  
グローバル展開を加速



成長を続ける海外需要に、きめ細かく対応する司令塔として立ち上げたグローバルマーケティング本部を中心に、海外子会社とBUとの三位一体でマーケティング力を強化し、グローバル展開を加速してまいります。

中国では日本式血液透析システムの普及に続き、コア事業の展開を進めるほか、ASEANでは、販売子会社や生産拠点を持つメリットを活かし、タイ、インドネシア、フィリピンを中心に販売の拡大を図ってまいります。



## 取り組み③：次世代事業の創出

JMS

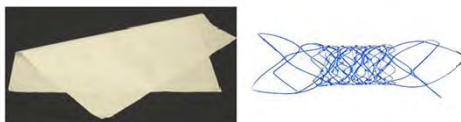
### 顧客視点から 製品開発

薬液調製・投与クローズドシステム  
「ネオシールド」



### 生分解性材料の 技術展開

癒着防止材、消化管ステント



### 先進技術を活用した 新価値の実現

IoT、AIによる故障予知、至適治療の提案



### 新製品の 継続的探索

オープンイノベーション推進  
投資ファンド活用、M&A



抗がん剤を安全に取り扱うデバイスの「ネオシールド」は、市場要望に迅速に応える事で順調に販売を伸ばし、主力製品に育ちつつあります。

また、当社独自シーズによる生分解性材料のデバイス開発にはもう少し時間を要する見込みですが、着実に課題をクリアしながら製品化を進めております。

このほか、医療機器投資ファンドを通じたスタートアップ企業への出資を始めており、M&Aや事業提携など視野に入れ、次世代事業の創出に挑戦してまいります。

## 取り組み④：グループ経営基盤の強化



## 環境や戦略に**適応**した “企業体質の変革”



コロナを契機に、テレワークの浸透による新しい働き方や、オンライン化による非対面のビジネス活動、遠隔医療の普及など、社会環境や人々の行動様式に大きな変化が予測されています。

収益性と成長性のバランスのとれた企業体質へ変革していくために、この変化をチャンスと捉え、環境や戦略に適応したグループ経営基盤の強化を推進してまいります。

# 取り組み⑤：持続可能な社会の実現



## 事業活動を通じた医療への貢献



## 企業活動を通じた社会への貢献

これからの時代、企業が事業を通じた経済的な豊かさの追求だけでなく、社会的な課題解決を通じた価値創造にどう取り組んでいるかが問われています。

「持続可能な開発目標(SDGs)」について、当社では、医療を支える事業活動とグローバルな企業活動を通じて、その達成に貢献できるようグループ各社とともに活動目標を定め取り組んでまいります。

私たちは、医療を必要とする人と支える人の架け橋となり、  
健康でより豊かな生活に貢献することで、全ての人々を笑顔にします。



**JMS**  
人と医療のあいだに…



私たちJMSはこれからも、人と医療をつなぐ架け橋として、それぞれの国や地域の医療現場における「価値」の創造と提供に取り組み、世界の医療と人々の生活の質の向上に貢献するとともに、健全な事業活動を通じて、企業価値を高めてまいります。